

## 研究施設昭和49年度報告

### I 運営会議

6月14日, 第1回運営委員会。於学部。参加者, 羽田施設長, 浅輪, 新井, 掛川, 北原, 鈴木, 滝沢, 竹内, 西沢各委員, 中村, 山岸, 赤羽各施設員, 山田事務長補佐, 上島, 田子各係長, 新村管理主任。昭和48年度事業報告, 決算報告, 昭和49年度事業案, 予算案等につき討議。予算緊縮につき, 事業案の一部を変更・中止した。

11月16日, 第2回運営委員会。於志賀自然教育研究施設。参加者, 羽田施設長, 新井, 大城, 掛川, 島田, 鈴木, 高見沢, 滝沢, 西沢, 山ノ内各委員, 中村, 山岸, 赤羽各施設員, 上島係長, 新村管理主任。研究業績第13号発刊について, 編集委員の変更案を討議し, 承認した。

### II 施設管理・充実

#### (1) 観察路整備

自然園内・自然観察路の破損が目立ち, 一部には, 土砂くずれの危険を生じていたが, 長野県環境保全課, 環境庁上信越国立公園管理事務所, 中野地方事務所, 山ノ内町役場, 地元平穏土建の努力により, 修復された。10月26日に落成し, 立派な観察路になった。

#### (2) 長池・ロックガーデンの保護柵

見学者の増加に伴って, 長池池畔, ロックガーデンの損壊が目立って来た。たとえ, 景観をいぢるしく損うとしても, 保護柵を設置し, ロープを張りめぐらし, 立入禁止の立札を増設した。その結果は, かなり良好で, 保護区内へ入る者は, あまり見かけなくなった。

#### (3) 標本整備

展示館の充実を目標に, 折ある毎に標本を集めているが, 本年はニホンザル本標本をはじめ, 哺乳類, 鳥類の骨骼標本, キノコ類の乾燥標本が各々多数集まった。ニホンザルについては中野地方事務所, キノコについては日本菌学会の御好意に負うところが大きい。また, 鳥類の骨についても, 卒業生多数の情報によっている。

### III 印刷物

本年は, パンフレット5000部を印刷し, 展示館入口にて, 無料で配布した。研究業績第12号は800部印刷し, 各方面に頒布した。

### IV 自然教育実習

昭和49年度理科教員取得学生の志賀自然教育実習は二泊三日で行なわれ, 前半は6月23日より7月3日まで, 186名, 後半は10月6日より10月10日まで, 72名受講した。

### V 大学開放講座

大学開放講座「自然保護」は8月1日より8月4日まで, 三泊四日の日程で行なわれ, 県内外各地より, 30名受講した。講師は羽田健三, 中村登流, 山岸哲, 赤羽貞幸。

### VI 施設利用研究者

昭和49年2月22日より, 昭和50年3月31日までに, 当施設を宿泊利用された方々は延べ2,915名であり, そのうち12月~4月までの冬季宿泊利用者は1,348名であり, 5月~11日までの夏季宿泊利用者は1,567名

である。これらのうちの主なる利用状況を第1表に示す。各種調査、研究会、ゼミナール等も昨年度にくらべ増加の傾向を示し有効に利用された。

第一表 研究施設利用状況

〈主な使用目的と利用者〉		
動物生態ゼミナール	2.22— 2.26	千葉大学・理・生物八木和主男他 5名
信大・教育・教官スキー合宿	3. 2— 3. 3	信州大・教育・教官関谷俊行他 7名
志賀自然史研究会探鳥会	5.18— 5.19	下高井・木島平村下高井農林高校教諭山口登他 9名
土壌調査・試料採取	6. 6— 6. 8	東京大学・農・教官金沢晋二郎他 6名
長野県科学者会議総会	6. 8— 6. 9	信州大・教育・教官間中大十他25名
付属小特殊宿泊訓練	6.11— 6.12	付属長野小教諭小林恭之助他生徒
付属中 //	6.13— 6.15	付属長野中教諭岡田栄一他生徒
山岳汚染指標鳥類調査	6.15— 6.16	信州大・教育・教官羽田健三他11名
鳥類調査	6.15— 6.16	須坂市・日野小・教諭松沢千年他 4名
土壌動物調査	6.22— 6.23	越谷市・北中・教諭・原沢興子他 1名
信大・教育・理科教材研究(1)	6.23— 6.25	信州大・教育・学生40名
// (2)	6.25— 6.27	// 39名
// (3)	6.27— 6.29	// 34名
// (4)	6.29— 7. 1	// 38名
// (5)	7. 1— 7. 3	// 35名
鳥類調査	7. 3— 7. 4	更埴市治田小・教諭母袋卓也他 1名
繊維工学研究室ゼミナール	7.12— 7.14	信州大・繊維・教官・沢路雅夫他14名
セミナー	7.17— 7.19	// 三石賢他 6名
地質調査	7.17— 7.20	信州大・教育・教官斉藤豊
歴史研究会合宿	7.18— 7.20	信州大・教育・教官・森安彦他 9名
学生野外実習	7.19— 7.22	愛媛大・教育・教官神野太郎他 8名
//	7.22— 7.27	東京都立大・理・生態・教官北沢右三他17名
朝陽小学校研修旅行	7.26— 7.27	長野市・朝陽小・教諭小淵順子他23名
東大・理・今井研セミナー	7.27— 8. 1	信州大・工・教官大路道雄他15名
大学開放講座「自然保護」	8. 1— 8. 4	東京教育大・理・生物 2年唐沢あい子他29名
更埴理科同好会夏期講習	8. 6— 8. 7	更埴市屋代小・校長松木重見他13名
研究室ゼミナール	8. 6— 8. 8	信州大・繊維・教官近田淳雄他 6名
土壌動物調査	8. 8— 8.10	玉川大・農・教官竹島征二他 4名
ノグチゲラ鳥声分析	8.17— 8.18	沖縄県・琉球大・理工・研修生中島邦雄
ベクトル解析ゼミナール	8.30— 9. 1	信州大・工・4年山口竜善他 3名
日本菌学会研究会	9.18— 9.21	林業試験所・小川真他28名
鳥類調査・文献・調査	10.12—10.15	京都大学・理・動物大学院長谷川博
写生会	10.12—10.13	信州大・教育・教官・松沢邦彦他26名
信大教育理科教材研究(6)	10. 6—10. 8	信州大・教育・学生39名
// (7)	10. 8—10.10	// 33名
土壌調査	10.17—10.19	玉川大・農・教官竹島征二他 7名
鳥類調査・文献・調査	10.27—10.31	京都大・理・動物・大学院中村浩志
カラスの就寝行動調査	11.23—11.24	信州大・教育・生態研・学生安達永真他10名
群集調査	12.16—12.18	京都大・理・動物・教官・川那部浩哉他 3名

自然観・意識調査まとめ	1. 18— 1. 20	信州大・教育・教官田中祐次他 7 名
冬の鳥類個体数調査	1. 25— 1. 26	信州大・教育・生態研・2年工藤悦男他10名
動物ゼミナール	1. 28— 1. 31	東京大・農・森林動物大学院渡辺守他 5 名
教育学ゼミナール	2. 1— 2. 2	信州大・教育・教官武藤孝典他15名
長野盆地成因についてのゼミナール	2. 8— 2. 9	信州大・教育・教官斉藤豊他13名
降雪粒子の野外観測	2. 19— 2. 26	気象研究所小野晃他 1 名

<施設通年利用者>

地質調査(卒業研究)	・信州大・教育・層位研・4年 赤井靖彦 4年 近藤利彦 教官 斉藤 豊
気象観測( // )	・信州大・教育・天文気象所 3年 岡庭 聡 教官 岩井邦中
コマドリ調査( // )	・信州大・教育・生態研・2年 工藤悦男 教官 羽田健三
ゴゼンタチバナの光合成の初期産物( // )	信州大・教育・植物生理研・4年 北岡 仁 4年 山岸美恵子 教官 入来義彦
雪の結晶の研究	・信州大・教育・天文気象研・教官 岩井邦中
高冷地における人体の順応性	・信州大・教育・運動生理研・教官 吉岡利治
湖沼の水質調査	・下高井・山ノ内東小学校・教諭 市村吉正

## Ⅶ 一般参観者の利用状況

5月1日より11月23日まで、展示館入口に来館者名簿を常備して、そこに記入されたものについて集計した。団体については10名以上のグループについて集計した。なお、この集計は来館者の自主記入方式であるため、未記載者も相当数存在しているものと考えられる。

全利用者数 34,022名 内 個人利用者 6,712名 団体利用者 27,310名  
これらの詳細は次の表によって示されている。

- 1 来訪者の団体の種類(第1表)
- 2 団体の県内外の比率(第2表)
- 3 月別参観者数(第3表)

全体的な参観者の傾向として次のようなことが言える。

- 1) 参観者は年々増加しており、今年も前年に較べて1割ほど増えた。
- 2) 県外の団体による参観者が増し、団体のうち県外団体が86%をしめている。
- 3) 参観者は、全国各県から訪れているが、関東・近畿地区の参観者が圧倒的に多い。
- 4) 月別参観者をみると、個人は7・8月、団体は5・6月に多い。

第1表 来訪団体の種類

	県 外		県 内		計	
	団体数 (%)	人 数	団 体 数	人 数	団 体 数	人 数
小 学 校	21( 8.3)	653( 2.8)	5( 12.5)	445( 11.3)	26( 8.9)	1,098( 4.0)
中 学 校	59( 23.4)	9,147( 39.1)	13( 32.5)	2,414( 61.2)	72( 24.7)	11,561( 42.3)
高 等 学 校	65( 25.8)	8,496( 36.4)	8( 20.0)	474( 12.0)	73( 25.0)	8,970( 32.8)
大 学	31( 12.3)	2,413( 10.3)	3( 7.5)	41( 1.0)	34( 11.6)	2,454( 9.0)
一 般	76( 30.2)	2,658( 11.4)	11( 27.5)	569( 14.4)	87( 29.8)	3,227( 11.8)
計	252(100.0)	23,367(100.0)	40(100.0)	3,943( 99.9)	292(100.0)	27,310( 99.9)

第2表 団体数の県内外の比率 (%)

	小 学 校	中 学 校	高 等 学 校	大 学	一 般	計
県 内	23.1	18.1	11.0	8.8	26.4	13.7
県 外	76.9	81.9	89.0	91.2	73.6	86.3

第3表 月別参観者数

月	個 人 (%)	団 体		計 (%)
		団 体 数 (%)	人 数 (%)	
5	441( 6.6)	35( 12.0)	5,321( 19.5)	5,762( 16.9)
6	349( 5.2)	30( 10.3)	3,112( 11.4)	3,461( 10.2)
7	1,406( 20.9)	95( 32.5)	10,952( 40.1)	12,358( 36.3)
8	3,421( 51.0)	65( 22.3)	2,827( 10.4)	6,248( 18.4)
9	503( 7.5)	27( 9.2)	2,695( 9.9)	3,198( 9.4)
10	544( 8.1)	36( 12.3)	2,328( 8.5)	2,872( 8.4)
11	48( 0.7)	4( 1.4)	75( 0.3)	123( 0.4)
計	6,712(100.0)	292(100.0)	27,310(100.1)	34,022(100.0)